

作品発表

## 「心を浮かべて2013」

With Mind Released

林 亨

北翔大学 生涯学習システム学部 芸術メディア学科

単なる展覧会のタイトルではなく、絵画について考えるための「場」あるいは「運動体」の総称とした「絵画の場合」<sup>(注1)</sup>は、一昨年、最終章として活動を終えた。絵画について考えることについては、もちろん新しいことでも何でもなし、筆者自身、絵画とは何か、これは絵画かどうか、というような問を常に念頭において制作してきたわけではない。活動に参加した他の作家もそうであった。むしろ、「そんなことを考える暇があったら、もっと制作に時間をかけるべき」あるいは、「誰だって考えているさ」という意見も多いだろう。しかし、誤解を恐れず言えば、絵画について考えることを意識化して集まった運動体の活動は、考えること以外の領域を照射し、感情や本能などにある、創造の根源のようなものを前景化することになり、絵画から見えるモノと見えないモノとの相互変換を活性化することになるのではないか。そしてそれは、作品や展覧会に有意な影響を与えることであり、絵画表現にとって必要なことであると考えている人間がある程度的人数いたからこそ、10年も続いてきたと考えている。これから「絵画の場合」はどこに向かうのか。最終章が終了した今、これからは「絵画の場合」としての活動は行われず、とするのが通常の見方であろう。ただ、この運動体の触媒であった絵画自体が何度も蘇っているように、筆者自身も、これまでに関わった人たちも、何かしらの形でこの運動体を引き継いでいくことになるだろう。

本学ポルト研究の美術グループで中核的に使用している「Work in Progress」というキーワードには、アートを成立させる多くの要素のうち、アート作品やアーティストといった個別の要素のみを対象とするのではなく、アートの構造全体を検証し直す意図を含めている。さらに、個人的には、絵画の場合の運動体を、引き継いでいる部分があると考えている。もちろん、絵画の場合の関係者に正式に承認されたものではないが、作品制作や展示と同時に、多様な議論や本研究員が生活し制作活動をしている地域の文化資源などの現地調査を行っている。

今回掲載した作品は、「Timeless：時の肖像」2013年11月3日～11月30日（由仁実験芸術農場）および「Timeless 2：時の回廊」2014年3月4日～23日（ポルトギャ

ラリー）に出品したものである。二つの展覧会は、美術グループの研究員であり、インデペンデントキュレーターである塚崎美歩氏が企画した展覧会であり、筆者にとっては、「時間性」という新たな視点を与えてくれた機会となった。

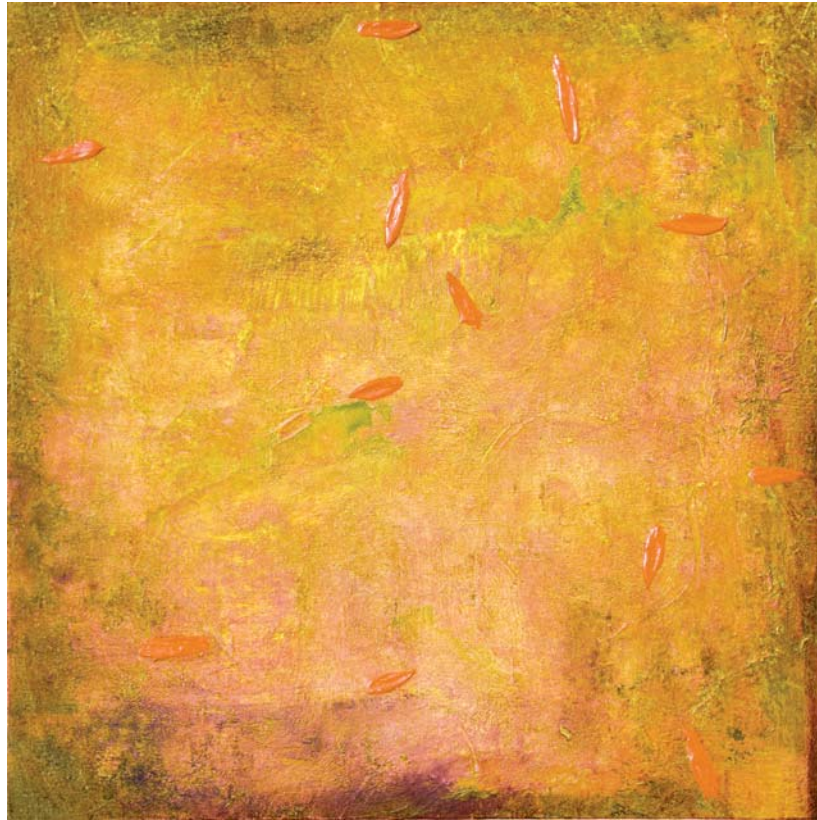
(注1)

本研究グループの研究員林、大井のほか、渋谷俊彦と梁井朗の4人が中心となって2004年に始めた運動体の総称。最終回とした、2012年3月開催の「絵画の場合2012ー最終章ー」までに、7回の展覧会が開催された。作品展示だけではなく「絵画をめぐる議論」やワークショップなどのプログラムを同時進行的に行った。参加メンバーは固定したものではなく、第1回から最終章までの9年間に、のべ約40人が関わった。

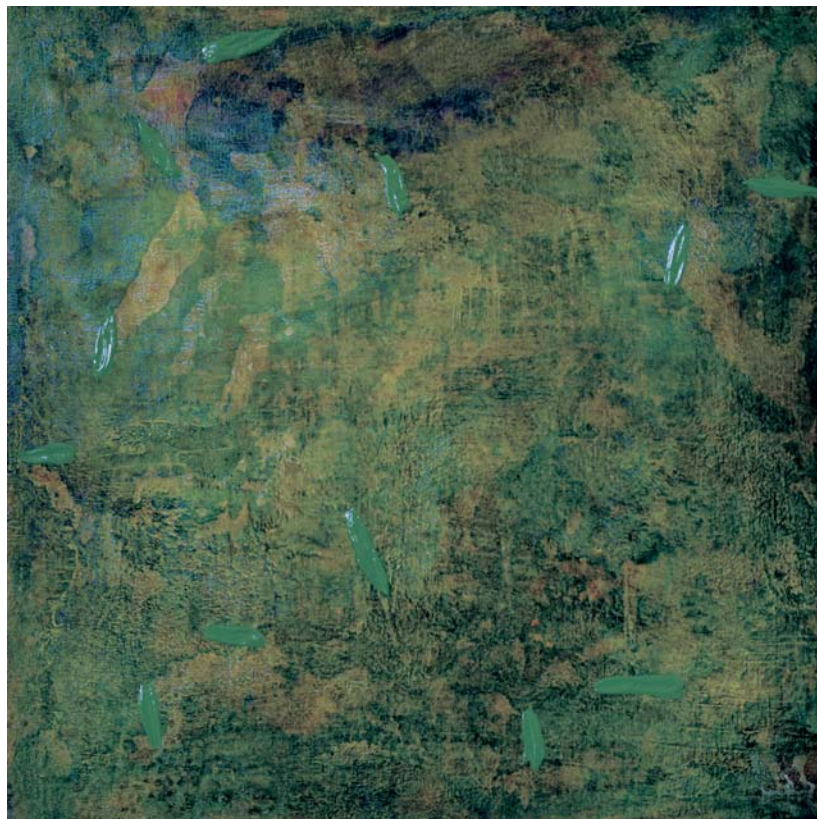
(本研究は、ポルト研究の助成を受けて実施された。)

心を浮かべて With Mind Released

林 亨



地下水 I 45 5×45 5 キャンバスにアクリル 2013



地下水 II 45 5×45 5 キャンバスにアクリル 2013